

研究評価委員会  
「エネルギー消費の効率化に資する我が国技術の国際実証事業/  
インド共和国（印国）におけるスマートグリッド関連技術に係る実証事業」個別テーマ/  
事後評価分科会 議事録

日時：2019年10月1日（火）13：30～16：40

場所：大手町サンスカイルームD室（朝日生命大手町ビル27階）

出席者（敬称略、順不同）

＜分科会委員＞

分科会長 伊庭 健二 明星大学 理工学部 総合理工学科 電気電子工学系  
教授／理工学研究科長  
分科会長代理 野呂 康宏 工学院大学 工学部 電気電子工学科 教授  
委員 加藤 丈佳 名古屋大学 未来材料・システム研究所 システム創生部門 教授  
委員 八太 啓行 一般財団法人電力中央研究所 エネルギーイノベーション創発センター  
配電システムユニット ネットワークグループ グループリーダー  
委員 福味 敦 兵庫県立大学 国際商経学部 国際商経学科 准教授

＜推進部署＞

武藤 寿彦 NEDO スマートコミュニティ部 部長  
佐野 亨 (PM) NEDO スマートコミュニティ部 主幹  
中 博一 NEDO スマートコミュニティ部 主査  
梅北 栄一 NEDO 国際部 部長  
大嶋 修 NEDO 国際部 専門調査員

＜実施者＞

篠原 孝司 富士電機株式会社 パワエレシステム事業本部 エネルギーマネジメント事業部  
電力流通総合技術部 電力技術課 担当課長  
前河 秀治 住友電気工業株式会社 パワーシステム研究開発センター 電力応用システム部 主幹  
本澤 純 THE パワーグリッドソリューション株式会社 ディレクター

＜評価事務局＞

渡辺 幸一 NEDO 国際部 統括主幹  
梅田 到 NEDO 評価部 部長  
上坂 真 NEDO 評価部 主幹  
宮嶋 俊平 NEDO 評価部 専門調査員  
川井 佳子 NEDO 評価部 主査

## 議事次第

(公開セッション)

1. 開会、資料の確認
2. 分科会の設置について
3. 分科会の公開について
4. 評価の実施方法について
5. 事業の概要説明
  - 5.1 事業の位置付け・必要性、実証事業マネジメント
  - 5.2 実証事業成果、事業成果の普及可能性
  - 5.3 質疑応答

(非公開セッション)

6. 事業の詳細説明
  - 6.1 実証事業成果、事業成果の普及可能性
  - 6.2 質疑応答

(公開セッション)

7. まとめ・講評
8. 今後の予定
9. 閉会

## 議事内容

(公開セッション)

1. 開会、資料の確認
  - ・開会宣言 (評価事務局)
  - ・配布資料確認 (評価事務局)
2. 分科会の設置について
  - ・研究評価委員会分科会の設置について、資料1に基づき事務局より説明。
  - ・出席者の紹介 (評価事務局、推進部署)
3. 分科会の公開について
  - 評価事務局より資料2及び3に基づき説明し、議題6.「事業の詳細説明」を非公開とした。
4. 評価の実施方法について
  - 評価の手順を評価事務局より資料4-1～4-5に基づき説明した。
5. 事業の概要説明
  - 5.1 事業の位置付け・必要性、実証事業マネジメント
    - 推進部署より資料5に基づき説明が行われた。
  - 5.2 実証事業成果、事業成果の普及可能性
    - 実施者より資料5に基づき説明が行われた。
  - 5.3 質疑応答
    - 5.1及び5.2の説明内容に対し以下の質疑応答が行われた。

【伊庭分科会長】 それでは、詳細につきましては議題 6 で扱いますが、ただいまの説明に関しまして、現段階でご意見・ご質問等はございますでしょうか。

【加藤委員】 名古屋大学の加藤です。詳細な説明をありがとうございます。

まず、事業の設計について皆さんに質問します。14 のプロジェクトがある中で、今回 1 つを選ばれているわけですが、他のプロジェクトと比較しての差異とか特徴といったものはどうでしょうか。また、他はあまりうまくいっていないと言うご説明がありましたが、なぜこのプロジェクトはうまくいったのでしょうか。実証した内容が技術的に達成しやすかったのか、管理がうまくいっていたのか、その辺のご説明を少し追加していただけないでしょうか。

【佐野主幹】 他の事業について、詳しいことは我々も入手できていないのですが、3月のインドでの展示会のときに、参加可能なプロジェクトが集まって発表会を行いました。それを見ている限りは、そもそも我々と同じようなデータを取ってくるのが難しいと見え、うまくいかなかったと考えられているプロジェクトが多いという状況です。

ただ、できているところについては、我々が今日お示したような分析結果のグラフ等々、出てきておりましたので、それらに関しては、我々と同じような感じで進んでいると見えました。細かいところどどのような違いがあるかというところを申し上げる情報を持ち合わせておりません。

【加藤委員】 ありがとうございます。

【篠原担当課長】 今の補足なのですが、少なくとも我々委託先が入手している情報というのは、ISGF、India Smart Grid Forum というところが発表されている資料からの情報です。その情報の中で、基本的に成功という言葉は使っていません。正確に言えば、設置が完了した、どっちかという完了ということですが、したがって、我々のプロジェクトについても完了という表現になっているので、ほんとうに成功したのか、うまくデータがとれているのかというのはちょっと分からないところがございますので、そのところをご了解いただきたいと思います。

【野呂分科会長代理】 これは簡単な確認ですが、日本側とインド側でそれぞれ役割分担をされていますが、費用の負担も、主な役割分担がインド側になっているものについては、インド側で負担していると考えてよろしいでしょうか。

【佐野主幹】 はい、そうです。メーターの設置等々はインド側の費用で行っております。

【八太委員】 実証事業のマネジメントに関する質問です。今回の事業では、現地の状況のために予想外に苦勞されたように見受けられました。事業のマネジメントとして、事前の計画に対して実際に進めていく中で、どこかを見直したり改善したりといった工夫はされたのでしょうか。

【佐野主幹】 はい。発表の中でも少し申し上げましたけれども、インド側だけでやっていると難しそうな部分については、日本側が、分担でいうと「◎」ではなくて「○」や「△」になっているような項目につきましても、かなり大きなポーションを持って関与するという形で計画を見直しまして、支援したというところがございます。

【福味委員】 ご説明ありがとうございます。2つほどお伺いします。1つはピークロード低減技術の実証のところで、日本側の提案で、スマートメータにデマンドリミット制御機能を実装したということですが、このシミュレーションの結果を受けて、先方の反応はどのようなものだったのでしょうか。もう1つは、変圧器の故障率低減のお話で、現場のワーカーレベルのところに出ていって指導されたということですが、インドの場合、ワーカーレベルとビルの中で働いている人の断絶というのがすごくあると思います。ワーカーレベルの人たちには、どれぐらいの具体的な人数に指導されたのでしょうか。

【篠原担当課長】 1つ目の質問から回答させていただきたいと思います。今回、先ほどもお話ししましたとおり、相手の配電会社の、「この方式が妥当である」という見解を受けて、採用していただきました。最終的に幾つか実際にやってみせて、配電会社側からは、これをもうちょっと運用として使いたいと

いう希望はもちろん出てきています。ただ、今回我々が提供したシステムの範囲というのは、どちらかといいますとメーターの管理の部分でして、今回、使い方としましては、その1つ1つにシステムから指定して、デマンドリミットを設定しなきゃいけないという、そういうレベルのものでした。

本来は、例えばこのフィードにあるお客さんについては、全部この時間、一律にやるといった使い方をされると思いますが、そういうのはもう1つ上の顧客管理のところからやらないとできないと思います。若干その綱引きがあつて、ぜひフィード単位であるとか、この地域の単位であるとか、そういう設定の仕方をしたいので、そこを考えてほしいとは言われたのですが、システムの役割分担としては、そこを切り分けておかないと、非常に後々、またいろいろなものが膨らんできてしまうので、それは上位のシステムでやってくださいということになりました。使いたいという希望は非常にありました。

2つ目については本澤さん、よろしいですか。

**【本澤ディレクター】** 教育に関してなんですけれども、先ほど示した訓練設備を用いて、教育を行っております。そこには本社のメンバーと、現地パニパットの主要メンバーに参加していただくことで、教育を行っております。そのパニパットの主要メンバーを起点にして、教育をさらに面的に広げていこうというのが今回のキャパビルのやり方になっております。

ただし、パニパットの現地を巡回するときに、主要メンバーと一緒にやっているものと、さらにラインマンを同行させて、我々が横の展開もサポートするという格好で教育をさせていただいているものがあります。

実際的人数自体は、現地側のメンバーは1桁台にはなっていますが、そこから広げていくという形でやっております。

**【伊庭分科会長】** それでは私から。今の福味委員の質問にも近いのですが、特に訓練センターというところでトレーニングをしたということは、非常に新しいアクティビティーで、大事なところではないかと思えます。その教育を受けた側のレベルはどうでしたでしょうか。例えば、日本でいえば工業高校の卒業生、もしくはインドで大学の教育を受けた学生であるか。もしくは作業側側の技量・能力といったところがどうであったかということの感触と、結果的に技術が定着していったかどうか、その辺を1点教えていただきたいと思えます。

もう1点です。いわゆる電力会社は、日本の場合ですと地域の特に優良な会社という位置づけになりますが、インドの場合はかえって、電力事業そのものが運営できないぐらい難しいと言われております。なかなか事業として成立し得ないところとして、電気料金の回収がちゃんとできていない、お金が取れないという話を聞いています。今回、事業の中に少し入り込んでみた段階で、電力事業そのものが、インドでちゃんと運営していただくだけのバックグラウンドがあるのかどうか、この2点を教えていただきたい。

**【本澤ディレクター】** まず、現地教育なのですが、先ほど申し上げた本社に来るメンバーについては、本社側やパニパット現地の上位レベルのメンバーといった主力メンバーということで、彼らの教育レベルは非常に高いですし、教育を受けての理解度も非常に速いです。実際に3分割3連系で事故が起こったときにシミュレーションして、どう復旧させるというのも正確に理解しております。彼らに現地メンバーに対して講義させるということもやってみましたが、そこでももちろん理解度が高かったです。

ただ一方で、現地のラインマンのレベルになりますと、ちょっと理解度が追いついていません。彼らも教育にできるだけ参加してはもらいましたが、やはりそこは理解度には開きがあるというのが正直なところになります。ただ、例えば、先ほどお示ししましたチェックシートを起こして実際に作業をやるという意味では、非常に実直にやっていただけており、その辺は浸透できているのかなと理解して

おります。

**【篠原担当課長】** 2点目のご質問で、電力会社の電力料金の回収といったあたりですけれども、少なくとも私たちが把握できる事実として年々その赤字は減っています。2018年度は分らないですが、UHBVNで2017年度はたしかマイナス30億程度です。全ての電気料金を回収できてはいません。

AT&C loss、要は商業ロスとテクニカルロスというものがございすけれども、商業的なロスのほうが大きくて、それでも年々回収はできてきているようです。彼らは単純に電気を配って、それが幾ら回収できたかというところでAT&C lossをどうも出しているようなのですが、以前始めたころは30何%とかという話だったのですが、今は20%台前半ぐらいまでは落ちてきています。どこにどう施策をとっているかというのがはっきり分らないのですが、例えばケーブルの被覆線化といったこともやっているようですので、今回のシステムに対しても非常に期待は大きく、停電が少なくなりつつあります。あと料金徴収も、料金を払わないお客さんには電気を配らないで、止めるということをしていました。実際我々がオペレーションセンターにいますと、そうして止められたお客さんが次々来ました。電気代を支払った領収書を持ってきて、「お願いです、電気を入れてください」とやってくる感じで、料金徴収は徐々にやれるようになってきているような状況になっております。

**【伊庭分科会長】** ありがとうございます。追加ですけれども、メーカーのお立場で、今のMake in Indiaということに関してです。将来的に配電のビジネスになりますと、物もたくさん売れるという可能性もありますが、日本製品が将来インドのマーケットにたくさん入っていけるかどうか、感触としてどのぐらいの感じかということです。これは非公開のほうのお話になるかもしれませんので、差し支えない範囲で教えていただければと思います。

**【篠原担当課長】** 今のご質問ですけれども、ちょっと手探りのところがございます。今回導入したシステムも、日本と同等では全くなく、日本ですと配電自動化のシステムを入れますけれども、今回、配電自動化の機能は入れておりませんで、あくまでも遠隔の制御・監視プラス事故点の自動検出というものをやっております。どういうステップでこれからインドが発展していくのかということを見ながらでないと、なかなか正確なお答えはできないと思います。

ただ、少なくとも今回インドに入れたシステムは、そういった今の監視・制御と事故点検出のレベルでいえば何とか満足できるようなレベルであり、後ほどご紹介するインドの課題として、通信品質が悪いですとかいろいろあるのですが、機能的には十分活躍できる内容になってございますので、インド側もそれなりに期待していると思いますし、我々もそこには期待をかけているといったところです。

**【野呂分科会長代理】** 追加で、あと2件ほどあります。1つはスマートメータの通信成功率の測定の件です。もともと事業の目的として何%という目標が決まっていなくて、今回得られた実際の値は十分なレベルだったのか、あるいは目標としていたところがあり、それに対してどうだったかをお聞かせいただきたい。

もう1つは配電システムの監視・制御に関してです。3分割3連系方式で機器を持ち込んでいますが、おそらく今はインドの中では普及していないと思います。例えば彼らがそこに対して自分たちで費用負担をするというときに、それに対する反応として、費用がこんなにかかるのかとか、あるいは、これなら自分たちでもやれそうだという話を、もし聞かれていたら伺いたいと思います。ひょっとしたら次の非公開セッションのほうの話になるかもしれないので、可能な範囲でよろしければお聞かせください。

**【篠原担当課長】** まず、必要な通信成功率というのが幾つかというのは、具体的には、なかなか正確には言うことができないのですが、少なくとも機能的に申し上げますと、今の段階ですと、月々の電気料金が計算できればいいこととなります。ということは、月に1回もしくは2か月に1回ぐらいのスパンで、必ずどのぐらい使ったかという計量がわかればいいということとなります。そういった意味では、

確かに 30 分値を定期的にとるというのは難しいのですが、1 日に 1 回取っている値から電気料金を計算するという意味においては、十分であると判断しております。

もう 1 つ、3 分割 3 連系の配電機器のお話ですが、今回、Asa Bhanu 社 (Asa Bhanu Technical Services: 以下 Asa Bhanu 社) というところを使いまして、配電機器については VCB と LBS を作っていただきました。日本から持っていったというよりは、インドの中で部品を調達して組み上げたということです。インド全土を見ているわけではないので、ほかの州でどのくらいそういったものがあるかというのは分かっていませんけれども、少なくとも見かけたことはありません。そんなに簡単に作れないのかもしれないのに加え、そういう発想が今のところないのかなという感じもしております。

そういう意味でいきますと、今後も Asa Bhanu と一緒にやっていこうと思っています。今回、Asa Bhanu にお願いしまして作る過程でいろいろ不具合がありました。製造上の品質という意味でいろいろとあり、こちら側からいろいろ指導して解決してきましたので、そんなに簡単に作れるものでもないのかなという気はしております。

(非公開セッション)

## 6. 事業の詳細説明

省略

(公開セッション)

## 7. まとめ・講評

**【伊庭分科会長】** これから議題 7、まとめと講評で。各委員の皆様から講評をお願いしたいと思います。

それでは、福味委員から順番にお願いできますでしょうか。

**【福味委員】** ありがとうございます。私はインド経済をずっと研究してきて、特に電力問題に関心があって見てきた者ですので、インドの電力部門の最大のアキレス腱は配電部門の財務にあり、その改善のためには料金改定がありますが、それは政治的にほとんど手をつけることができませんので、ロスの削減が一番大事だと考えております。

そういう点で、今回のプロジェクトで 40 数%だったロスを 20%台前半まで下げることができることを実際に数字として見せることができたのは、非常に大きな成果だと感じております。

それから、これもインドでいろいろとインタビューをしていると感じるのですが、新しい技術を入れるだけではなく、彼らはマインドセットという言葉を使っていたのですが、その改革が大事だということをよく聞きます。それは消費者側の、盗電をしないというマインドセットと、配電会社の職員のマインドセットの両方を指しているのですが、今回のキャパシティ・ビルディングでは、ラインマンなどのトレーニングを通じて、職員側のマインドセットを変えていくという、非常に画期的な試みだったと思っています。

ただ、先ほど少しお話がありましたが、ビジネスとしては、なかなか食い込むのが難しいという印象があります。まずはステップ・バイ・ステップで、ハリヤナ州の中で監視範囲を拡張していくというご説明がありましたが、そこがうまくいくといいと、私としては期待を込めて、見守っていきたいと考えております。

**【八太委員】** 本日はいろいろご報告をありがとうございました。今回の事業は 4 年間と限られた時間でもあり、また相手となる地域が海外で、しかもインドの中でもかなり厳しい環境のところでも実証されたということで、なかなか難しかったところも多かったと思います。事業者さんにはいろいろとやっていただきましたが、環境などを考慮すると、しっかりした成果が上がったと思っています。特に、停電や電力ロスなど、数字の上で改善効果が大きく出ているところが確認できましたので、非常によか

ったと思います。

また、海外にはインドのみならず、電気事業として進めていく環境が難しい地域がたくさんあるかと思しますので、今回のプロジェクトの成果を、ほかに向けての今後の知見として有効に活用していただければと思います。成果報告書についても、今後の公開されるものに期待したいと思います。

**【加藤委員】** まずは大変難しい地域でこれだけの成果を上げられたことに対して、敬意を表したいと思います。特にスマートメータの設置・導入に際してしっかりとした管理で運転されたことに対しては、非常にご苦労があったのだらうと思います。

その上でですが、スマートメータを入れていくには価格勝負になるということは仕方がないことで、これはある意味、予想されたことだったらうと思います。先ほど福味委員からマインドセットという言葉もありましたが、もう少し余裕があれば、こういう実証事業を通じて、単に価格だけではなくちゃんと動く、機能するという含めての評価に持っている形の仕組み、あるいは流れで今後につながるようなものができると思いと思っています。

報告書の中でも、今後の展開ではどんなところに重点を置くべきかについて、単に物を入れるのではなく、仕組みを変えていく、あるいはマインドを変えていくということであると良いと思います。

また、トレーニングセンターというのは大変有意義なものであると理解しました。ここでも大変なご尽力があったかと思えます。現場レベルの人の協力を広げていくには数をこなさなければいけませんので、そこをいかに展開していくかについて、今回得られた知見から今後につながることを報告書で書いていただければいいのではないかと思います。

**【野呂分科会長代理】** まず、ありがとうございます。日本とインドとは、おそらく全然勝手が違い、大変ご苦労されたのではないかといいところはよく伝わってきました。今回の成果で、課題のところはよくわかってきており、それをこの先にどういうふうにつなげていくかということが重要と思えます。課題の部分は、オールジャパンできちんと共有できるような形にして、それを次につなげるころでは、ディスカッションの中でもいろいろ出てきましたけれども、これでおしまいということではなく、継続していろいろとやっていくことだと思います。そうでなくて、次のプロジェクトでまた一から始めるというのでは事業の成果として有効活用できないと思えますので、引き続き何かを仕掛けるような形で、それをつなげていく方法も含めて、進めていただければと思います。

**【伊庭分科会長】** 私も、これはかなり難しい案件であり、重要度の高いものに対して、非常に果敢に取り組まれて、とてもよい成果が出た案件ではないかと評価しております。本当に頭が下がる思いで、よくおやりになられたと、敬意を表したいと思えます。

特にインドですと、先ほど福味委員もご専門の先生もおっしゃったとおり、ノンテクニカルロスの低減は非常に重要ですが、今回はこの4フィーダで日本円にして5,300万円と、かなりの大きな金額を取り返している。その率についても、かなりの改善ができたということに関しても、非常に成果があったと思えます。

また、具体的に4フィーダを借りて使わせてもらってという、現地で向こうのシステムに手をつけるということ自体が、なかなか簡単なことではないと聞いています。これもやはりNEDOさんのサポートなしではできない案件ですし、そこで相手のネットワークに実際に手をつけて成果が上がったというのは、非常に大きかったと思えます。

私は、これからの電力ビジネスの展開は、インドだけではなくですけども、配電のほうから広がっていく可能性が非常に高いと思えます。今までは重厚長大な原子力発電所を何台設置するとか、UHVの送電線を何本張るとかという視点で物事を見ていた時代があったと思えますが、今後はおそらくそうではなく、配電網のほうからビジネスが立ち上がってくるということになると思えます。電力需要の伸びについても、例えばインドの方々が今後日本人と同等、もしくは、場合によっては10分の1ぐらい

の電力を使うようになった時点でとんでもない電力の需要が発生することを考えますと、ビジネスとしては非常に大きいものと見ざるを得ません。そうすると、日本の産業界がここで力を発揮するということがどうしても必要になってくるということで、とても良い先鞭をつけられたのではないかと思います。

ただ、いざ入札レベルとなりますと、まだまだ勝てないというところもありますし、まだ難しい問題があります。今後の話としまして、このプロジェクトがせっかくここまで良い成果を上げている以上、何年かたった後に「あれはどうなった？」と聞かれたときに、「あれはああでしたね」ということで終わってしまったという形ではなく、例えばトレーニングセンターも大きくなっています、あるいは第2弾、第3弾がここにでき、パニパットだけではなくてまた新たに始まっています、というような話になっていただきたい。ここでおしまいとなると、どうしても悔しい気がいたします。

そういう意味では、NEDOさんや経済産業省の方々に関しても、もちろん単に費用を出せばいいという話ではなく、メーカーとコンサルティング会社だけではとてもできないような運営上の点を、何か上手な形でサポートいただき根づかせるということで、この種（たね）がもっともっと芽を出して大きくなっていくという方向に持っていっていただきたいという感じを持っております。

講評という意味では、私からはここまでですが、また先生方から、追加でこういうことも言っておきたかったというのはございますか。よろしいですか。

それでは、事務局にお返しいたします。

**【宮嶋専門調査員】** 委員の先生方、ご講評ありがとうございました。NEDOのスマートコミュニティ部長及び国際部長から、一言ずついただけますでしょうか。

**【武藤部長】** NEDOスマートコミュニティ部長の武藤です。本日は長時間にわたり活発なご議論をいただき、ありがとうございます。

我々も、国内の市場への展開が今後難しくなってくる中であって、日本の技術をもって海外に適合させていくことというのは非常に重要なことなのではないかと考えて、このような事業を支援させて頂いています。そういった中でも、インドは非常に注目していますが、その一方で、難しいところもありまして、今日の議事の一部でもお話がありましたが、特にこのパニパットという地域はパキスタンとの国境近くに位置しており、先般のインドとパキスタンの関係が不安定となった際にも、近隣の空港が閉鎖されるといったことも発生しており、そういった意味では皆さん非常にご苦勞をされたかと思えます。

そうした中においても、今回の事業はキャパビルといった運用部分も含めた形で構成しており、非常に野心的な取り組みであったかと思えます。結果として、先生方からご講評をいただいたとおり、配電ロスや停電時間の低減といった点で、インドでの社会貢献という観点からも一定の成果を上げているのではないかと思います。

我々もこれまでの国際実証の経験を踏まえると、特に電力システムや電力市場等の環境がどの国も急激に変化している状況ですので、今回の事業を足がかりにして、近い将来に広く展開が期待されると考えています。NEDOとしても、我々が本日頂いたご指摘・ご助言等を踏まえて、今後インドにもしっかりとPRしていきたいと思っておりますし、特に来週はインドの配電公社であるUHBVNのトップの方なども来日されると聞いており、この機会にセミナー開催なども考えています。このような形でNEDOとしても必要な努力をしていきたいと思っております。

本日は長時間にわたりご意見をいただき、ありがとうございました。

**【梅北部長】** 国際部の梅北と申します。本日は伊庭先生はじめ、委員の先生方、説明していただきました企業の方々、長い間活発なご議論をしていただきまして、どうもありがとうございます。

4年間の実証事業だったということで、今日の説明にもいろいろにじみ出ておりましたが、インドの

非常に脆弱な通信事情だとか、工事が貧弱だとか、低コストである入札に悩まされるとか、いろいろな問題は出たと思います。そしてそういったインドで典型的な問題に対して、インドのパートナー企業とタッグを組んでお進めになり、キャパビルという仕組みを導入して、インドにもメリットを感じさせるような取り組みをされている。事業が継続するよにということだと思いますが、そういった取り組みを通じて一定の事業の成果を上げられたということで、ほんとうに敬意を表したいと思います。今後は、また更にフォローアップをされるということ聞いておりますし、特にこの先4年間、保守管理に関わるかどうかということも気になってくるころだと思いますので、この実証で得られた教訓をもとに、ぜひ今後とも活動を継続していただければと思っております。どうかよろしくお願ひします。

今後の活動に対するNEDOからの願ひとしては、今回得られた教訓をもとに、インドでこの厳しい環境の中で事業をする時に、どういうところに日本企業というか今回のチームとして強みを見出して、事業を展開し貢献していくのかということと、途中で欧米企業との活動との比較のような話が少し話題になりましたが、そういったところとも比較してどういうところに強みを見出すのか。機器だけでは難しい、では機器全体を含めたシステムなのか、さらにキャパビルも含めた全体的なマネジメントなのか等、いろいろなイシューはあると思いますが、それを今後の展開にも繋げるために、引き続き取組に反映していただければと思っておりますので、どうかよろしく願ひいたします。ありがとうございました。

**【伊庭分科会長】** 今、NEDOさんからもお話が出ましたが、私から少し願ひをしたいのは、いろいろなところでいろいろな講評をして情報発信をしていただく場もまた必要なのかなと思います。スマコミサミットや、日印のいろいろな活動の中でも、このような活動ができていますよということをどんどん公表していただきたいような気もします。また、ノウハウまではもちろん出せないとしても、インドにこれから出ていこうという企業さんに対しても、何かプラスになるような情報をいただいて、こういうふうによればうまくいくのかもしれないというヒントでも発信をしていただいたら、プラスになるという感じがいたします。

また、今日は委員のメンバーだけではなくて、たくさんの傍聴の方々も来ていらっしやって、ありがたいと思っておりますが、特にオブザーバーとして、経済産業省から下田係長もおいでになられておりますので、少しご講評をいただければと思っておりますので、よろしく願ひいたします。

**【下田係長】** 資源エネルギー庁の下田と申します。本日はご報告、どうもありがとうございました。

現場での話や写真を見せて頂き、皆さまのご苦勞を実感致しました。ご承知のとおり、日印の二国間は、首脳外交に見られるように緊密な協力関係を築いてきており、エネルギー分野でも、大臣レベルの日印エネルギー対話を開催して、協力を進めてきております。皆さまの活動の1つ1つが日印エネルギー協力を積み上げていると思っておりますので、そういった意味でもご苦勞されている皆さまに感謝をしたいと思ひます。

本日、評価委員の方から、出てきた成果をしっかり発信し、これで終わりにしないで次につなげることが重要だというお話があったと思ひます。まさに日印エネルギー対話の枠組み、特にその下にある電力ワーキンググループを活用して、明らかになった課題やこれまでの成果をPRしていくことは、私たち政府でもお手伝いできると思ひますので、引き続き宜しく願ひいたします。

**【伊庭分科会長】** ありがとうございます。非常に力強いお話で、大変ありがたいと思っております。私も、電力の産業そのものに関して、今後のインドへのアプローチでは、スマコミのほうから攻めていくという方法が唯一成功するのではないかという感じがしますので、ぜひそこのところをまたよろしく願ひしたいと思ひます。

それでは、これでまとめ・講評ということで、議題7を終わりにしたいと思ひます。

8. 今後の予定

9. 閉会

## 配布資料

- 資料 1 研究評価委員会分科会の設置について
- 資料 2 研究評価委員会分科会の公開について
- 資料 3 研究評価委員会分科会における秘密情報の守秘と非公開資料の取り扱いについて
- 資料 4-1 NEDOにおける制度評価・事業評価について
- 資料 4-2 評価項目・評価基準
- 資料 4-3 評点法の実施について
- 資料 4-4 評価コメント及び評点票
- 資料 4-5 評価報告書の構成について
- 資料 5 事業の概要説明資料（公開）
- 資料 6 事業の詳細説明資料（非公開）
- 資料 7 事業原簿（公開）
- 資料 8 今後の予定

以上